
心理の奥で

ホームズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心理の奥で

【Nコード】

N1997I

【作者名】

ホームズ

【あらすじ】

これから紹介するのは1人の学生が、人の心を読み、いろんな経験をしていく話です。

難しいことは言えませんが
読めばわかりますから・・・

はじめに・・・（前書き）

初めて小説書きます。

不満な点、たくさんあるでしょうが最後までお付き合い頂けたら幸いです。

はじめに・・・

一度は誰でも思ったことがあるだろう。

人の考えていることを知りたいと・・・

テストで頭がいい奴の考えてることがわかったら100点なんて楽勝。

好きな女がいたら、その女の考えてる通りにすればすぐにおちるだろう。

しかし、いいことばかりではないかもしれない・・・

心を読め！

俺の名前は、たけうちしゅん竹内俊。

今年高校3年の年は18だ。今、幼馴染の2人を待ってるところ。学校だからな。

俺には、ほかの人にはない力がある。

それは・・・人の考えてることがわかるんだ。

1週間くらい前に急に聞こえるようになった。だからと言って生活はほとんど変わらない・・・

難しいことは考えないようにしてるからなw

「俊！おはよー！」

（今日もキマってるか??私!）

「おう。亜矢音、来るのおせーぞ!w」

キマツテマセンガ・・・

こいつは小学校からずっと同じのたちはなあやね橘亜矢音。

ぶっちゃけまちで可愛い・・・。ム力つくくらいにモテる。あとは・

・

「え?いつも通りじゃん!」

（いいから、カワイイとか言えよ!）

自分のことカワイイとか思ってる・・・ぶりっ子じゃねえけど。でも、ガキのころから知ってるから可愛くてもなんも思わんなw

「よお、はえーな」

俊「おっ！来た来たw」

亜矢音「高志、おはよう！」

こいつは、速水高志。はやみたかし高校で知り合った俺が1番仲がいい奴。
コイツは・・・

高志「あ、亜矢音・・・きよ、今日も・・・か、かか・・・カワイ
イ、ね・・・」

（おーし！言えた！今日は言えたぞー！）

そう、亜矢音のことがめっちゃ好きなのだ！こいつモテんのに・・・

・w

亜「ホント？！キャー！高志大好き！！」

（やっと私の魅力に気づいたなw）

高「やめろって！抱きつくな〜！」

（ああ・・・亜矢音の柔らかい胸が・・・おれもう死んでもいい・・・
ぜー！）

俊「行くぞ。遅刻しちまう」

じゃあ死ねw朝から暑苦しくてかなわねえっつの。

20分後 -

「放課後5時13分に職員室に来なさい」

俺たちは見事に遅刻して、担任の花山田に呼び出しを喰らってしまった・・・

俊「待つて先生！ギリチョンじゃね？！」

この半端やロウ。名前も時間も中途半端だな・・・

花山田「・・・わかった。」

（今日は持田ちゃん休みだからいつかw）

うわぁ・・・この担任美人な先生の前でいいカッコしようとして
いるう・・・

あ、持田もただちかつてのは持田千佳先生のこともで男子にも女子にも絶大な人
気を持つ美人な先生だ！

あんたには一生無理だよ、花山田・・・ご愁傷様w

昼休み・・・

高「俊！亜矢音が屋上に来てって言うてたぞ！」

俊「あーわかった。」

俺は高志と亜矢音が待つ屋上に向かった。

亜「俊！こっち来て！」

声のするほうに振り向くと亜矢音が屋上のフェンスを乗り越えて今
にも落ちそうな所に立っていた。

俊「バカ！お前あぶね・・・」「ぐはっ！！」

横を見ると高志が鼻血を出して倒れていた。

俊「おい！高志どうした？！」

高「白いパ・・・パン・・・ツが・・・」

（ああ・・・今日はなんて最高の日なんだ・・・そうだ・・・今日この日をラッキーdayと名づけよう・・・ふっ、もう何も思い残すことはない・・・ぜ）

亜矢音の方を見ると風でスカートが捲れて白いパンツが丸見えだった。

亜「ちよつと高志大丈夫？！」

（日光にやられたのかしら？？まだ春なのに）

俊「大丈夫！ほつといても死なんだろ。それよりそんなところに何があるんだ？」

お前のせいだ・・・ある意味お前のその白いパンツが眩しくてやられたんだろw

余計な突っ込みを入れず俺は亜矢音に聞いた。

亜「なんかコンクリートに文字が彫ってあるの・・・」「明日・・・ここから飛び降りる。柳恵美」って・・・」

（何これ・・・気味が悪い・・・）

俊「おい・・・」「やなぎえみ」ってうちのクラスの女子じゃねえか？！」

俺と亜矢音はその場に凍りついたように立ち尽くした・・・

柳がなにを考えているのか探ってみるか。

急いで教室に戻らないといけない！気づいたときは2人共走り出していた。

純白の夢の中で真っ赤に染まる高志を残して・・・

いじめを止める！

ガララッ！！

勢いよく扉を開けたせいか、教室にいる全員が俺たち2人をガン見してきた。

（うるせえな・・・） （あいつらいつも一緒だな。 （亜矢音・
・あんたレイプでもされてろよ。）

付き合ってたのか？）

（竹内・・・

橘から離れるよ！）

（橘！やらせろ！）

（ヤラセロ！）

（あ矢Ne・・・

体工口いんだよ！！！！）

（その服あたし達が破いてやろうか！ アハハハハ・・・！）

（ちょっとモデルからって

調子ノンなよ！ この淫乱

女！！！！）

くそ！こつち見てんじゃねえ！！！！うるせんだよ！お前ら！このク
ソヤロー共が！

なんだこいつら・・・亜矢音にいい態度とってる割にボロクソ言い
やがって・・・結局亜矢音の体目的かよ！

女子もこいつのこと嫌ってんのか？！

亜「恵美！ちよつときて！」

窓際の後ろの席で1人、牛乳瓶の底蓋みたいなメガネをかけた女の子が座っていた。

彼女が柳恵美。クラスに1人は居そうな無口キャラといったところだろう。髪型もヘアピンでとめた昭和的な感じだし・・・

亜矢音は有無を言わず恵美を屋上に連れ出した。

屋上・・・

亜「これ恵美が書いたの？！」

恵美「・・・うん。」

（本当は書かれたんだけどね・・・）

俊「書かれたって・・・あ！いや、なんでもない・・・

・・・なんでこんなこと書いたんだ？」

あぶねえ・・・口にしてないのに・・・怪しまれたかな？

恵「もう、学校に嫌気がさしたの・・・いじめられたくないし・・・

」

（本当はまだ、学校に居たいけど明日飛ばなきゃ・・・）

亜「大丈夫！いじめなんて私た・・・」本当に自分で書いたんだな？！」

俺は睨むように真っ直ぐ恵美の目を見た。

恵美「ほ、ほんとだよ・・・」

（言ったら亜矢音達も狙われる・・・同じクラスの・・・もう、誰も巻き込みたくない・・・）

同じクラスの女子か・・・後で探り入れるか・・・

亜「お願い恵美！明日絶対ここから飛び降りないって約束して！！」

（私と同じ・・・いじめ・・・あんなな思いはほかの子にしてもらいたくない・・・）

亜矢音・・・

恵美「う、うん・・・わかった・・・」

（ありがとう！ありがとう！）

「だいじょーぶ！！」

突然後ろから声が聞こえてきた。

俊「あ・・・」

高志「恵美ちゃん！おれらが友達！いじめ反対！！！」

高志・・・言ってることカッコイイけど、鼻血固まってんぞ・・・w

恵美「隆君・・・うつ・・・うん！ぐすっ・・・ありが・・・とう！・・・うつ・・・うつ・・・ぐすっ」

（友達・・・トモダチ・・・）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1997i/>

心理の奥で

2010年10月21日06時03分発行